

# 悠久の京を訪ねて

Vol.7



京は古より人々が集い、その気候・風土を織り交ぜ、日本の中心地として生活が営まれてきました。

それは京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により縄文、弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのかを知ることが、これからの生活を考える上でも重要な事だと言えます。

出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

## —豊穰を祈る神祭りの宝器—亀岡市馬路町池尻遺跡

いけ じり



京都府亀岡市

### 子持ち勾玉の発見

2005年、亀岡市馬路町池尻遺跡の発掘調査で、今から1,500年前の古墳時代後期に掘られた幅5m、深さ2mの灌漑水路の底から「子持ち勾玉」が出土しました。発掘担当者は、黒光りするほど丁寧に磨かれたその造形美に驚きを隠せなかったと言います。

出土した子持ち勾玉は、石の中で最も柔らかい滑石で造られています。濃い灰色で全長は10cm、重量は260gです。



池尻遺跡

大きな勾玉の周りに本来、8個の小さい勾玉が付いていましたが、そのうちのひとつが壊れたらしく、割れ口を丁寧に磨いて修復をしています。欠損してはなお、大切な神祭りの宝器として、繰り返し使われたことがわかります。

### 「子持ち勾玉」の意味するところ

一般的に勾玉は、アクセサリとして重宝されるとともに、玉のもつ霊力により豊穰などを期待したといわれています。

特に子持ち勾玉は、全国で350点ほど出土しており、5世紀から7世紀の集落や祭祀遺跡、古墳から出土することが多いようです。

大切な神祭りの宝器を水路に投げ入れることになった「村」に一体何が起きたのか？興味は尽きません。



池尻遺跡から出土した「子持ち勾玉」